

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101117		
法人名	株式会社 二幸		
事業所名	グループホーム ひまわりⅡ		
所在地	札幌市中央区南29条西10丁目7番1号		
自己評価作成日	平成 28年8月8日	評価結果市町村受理日	平成 28年10月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひまわりⅡは近隣の住人の方とより良い関係の中で毎日を送れていると思います。ホームより一歩外へ出ていても「ひまわりの方だね」と気づいて話しかけて下さったり、お茶のお声がかかったり、地域の方々と馴染みの関係が築かれています。これからも入居者様ご本人が一日一日を明るく楽しく過ごせるよう努めていきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170101117-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170101117-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年8月29日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道より100mほど中にあり、閑静な住宅地に位置している。近隣には商店、小学校、警察署等があり、バス停も近く利便性に恵まれている。建物は鉄筋3階建て1階が玄関と事務所、2～3階が利用者の居室、食堂等の生活空間となっており、室内は清潔で風通しの良い環境となっている。医療については、入院設備の整った協力病院と提携しており、利用者は毎月医師の診察を受け、看護師は毎週訪問して利用者の健康チェックを行っている。また、病状変化時にはいつでも受診ができ、入院にも対応可能である。充実した医療連携体制は利用者、家族、職員の安心に繋がっている。近隣地域とは、住民や商店、喫茶店などと良好な関係を培っており、災害時には利用者の一時避難場所提供申し出の声もある。事業所も地域の人々から介護相談を受けたりアドバイスするなど双方向での交流がみられる。地域に根ざし利用者の明るく、安らぎのある生活を支援している事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が 増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が みられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足している と思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひまわりⅡ独自の理念を作り、玄関に掲げている	地域密着型サービスの意義や事業所の役割を意識しながら、理念が職員の気持ちを一つにつないでいる。理念に添い、常に思いやりのある温かで家庭的な生活を目指したケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時など挨拶をする。先日一人で外出してしまった入居者の方を近所のクリーニング店の方が車で送り届けて下さったり、地域とつながりながら生活している。	町内会に加入しており、特に周辺地域住民からお花を頂いたり、災害時での一時避難場所としての提供申し出があったり、利用者の外出時には住民と挨拶を交わすなど交流が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームはどのような人が入っているのか？から始まって近所の入居希望の方にも対応や支援の方法を説明したりと地域の人々にむけて話かけている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、会議の中でホームでの活動状況や外部評価の結果、又ホームへの今後の要望などの話し合いを行い、サービスの向上に活かしている	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、利用者の家族等が参加し年6回開催している。会議は災害、行事、利用者状況等について報告し、運営に反映させている。家族には議事録を送付して会議の内容を報告している。	議事録の内容は項目だけでなく、地域との交流や活動、事業所の状況を詳細に報告書としてまとめるとともに、今まで以上に町内会及び町内会長への積極的な参加を促す地域密着型の福祉情報等の濃い内容の議事録を作成することを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けている利用者様が多い為市の生活保護担当者と連絡をとったり、市の主催する会議に出席したりと情報交換や協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当課とは常に連絡、情報交換を行い連携して取り組んでいる。また、生活保護の方の書類関係や状況報告などについても定期的に相談に行っている。管理者や職員は市や区主催の会議や研修会に出席し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし、センサー対応も必要最低限にしている。身体拘束をしない対応出来る様にと職員で話し合い、統一したケアに取り組んでいる	拘束となる行為とそれに伴う弊害は勉強会やミーティング等で情報を共有し、拘束をしないで利用者の安全を配慮するケアの提供に努めている。安全上夜間は施錠している。スピーチロックは全職員で注意をして情報を共有している。また、利用者の中には家族の同意の上でセンサーマットを使用して、利用者の安全に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行われていない。又研修会への参加を勧めたり学ぶ機会を持ち、事業所でも見過ごされないよう注意を払い虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は協力医療機関のソーシャルワーカーや区役所の方行政書士の方等から話を聞き、必要な方には活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約を結ぶ時や見学の時でも、本人や家族とよく話し合い、不安や疑問点に十分な説明を行い理解納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の事は家族と相談して意見を聞き対応している。又要望がある時はお答えしてポスター等他の外部者へ聞く方法を伝える等し、それらを運営に反映させている	家族には「ひまわりⅡ便り」と共に個別の手紙を添えたり、来訪時に声をかけて聞いている。家族との会話を大切にして、面会時には利用者の生活の様子を伝え、意見が言い易いよう働きかけている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は現場に入り一緒に仕事をしながらコミュニケーションを図りその中で意見や提案があった時は会議での話し合いや個別の話し合い等をして聞く機会を設け反映させている	法人代表者は管理者兼現場職員として利用者のケア業務を行っており、現場職員から日頃の意見や状況を確認がなされ、会議等を通して運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会社として交付金の支給等職員がやりがいをもち働ける様環境や条件を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として知識等レベルアップをしてもらうため、研修等を受ける機会を確保し呼びかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やスタッフ研究等同業者との交流する機会では積極的に情報交換をしてサービスの質の向上に努めている		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学のとき等に本人の不安な事などに耳を傾けて説明し、納得して頂いたうえで契約している。そこから本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		

グループホーム ひまわりⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学のとき等に家族の不安な事や要望などを聞き、説明して納得して頂いたうえで契約している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話などで問い合わせが来た時グループホームだけではなく、本人が必要としている支援を見極めその人に合ったサービスを勧めるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員に対して常に言っていることは入居者様が日々の生活の中で出来ない事を職員がサポートをすることの中で馴染みの関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は遠方の方が多いが面会時やひまわり便り電話での対応などで本人の様子を伝え、これからの対応の仕方やおこる可能性を説明して、一緒に本人を支えていく関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から行っていた美容室に行くなど、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。職員は利用者同行して馴染みの店での買い物に行ったり、馴染みの喫茶店や美容室に行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しトラブルにならないよう又孤立しないで利用者同士が関わりあい支え合えるような支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今でも以前入居されていた方の家族から相談されます。お花などを頂いたり又その御礼の電話の中でアドバイス出来ることなど支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議の時やモニタリングの時など、本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合でも本人本位に検討している	職員は入居時の聴き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握しているほか、日々の生活の中で会話や関わりから思いや意向を把握し、職員同士共有している。意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て職員間で共有している。	

グループホーム ひまわりⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人、病院などからの情報によりアセスメントを行いこれまでのサービス利用の経過などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室にこもりがちな入居者に対して散歩などの声かけをして居室の外に出るように努めたり、その人によっての1日の過ごし方を把握するように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人家族介護支援専門員と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して現状に即して作成している	利用者や家族の希望を聴き、担当する職員の気づき等も参考にして、一人ひとりの状態や思いを大切にしたり、暮らしに反映できる介護計画が作成されている。3か月ごとにモニタリングを実施し、評価につなげている。状況変化時は現状にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノート、日々の申し送りなどで情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、何を求めているのかを理解しホームで対応できない事でも分かる範囲でアドバイスするなど柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域の方々に理解していただきながら、生活を楽しむことができるよう努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の協力医療機関の受診と週に一度の訪問看護のアドバイスを、日曜日でも緊急時には協力医療機関の病棟に相談。院長の指示を仰ぐなど適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ毎月1回通院し、同病院の看護師が毎週来所し健康管理をしている。利用者が希望する病院受診も支援している。夜間緊急時も協力医との連携体制が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の方に月に6回きて頂き協力医療機関の訪問看護の方との馴染みの関係の中で個々の利用者が体調や要望などを話せるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療ができるよう医師や看護師ソーシャルワーカーとまめに連絡を取り合い情報交換や相談に努めている					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できるところを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応について説明している。また日頃から家族と連絡を取り合い状況を説明しながら 方針を共有しチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取り介護の指針」を説明し同意を得ている。重度化や終末期には医師や看護師、家族と話し合い再度同意を得ている。緊急時には協力医との体制を整えている。				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練を消防の方より受け実践を身に付けている					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回実施している。運営推進会議の議題としても取り上げ地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行い、消防署の協力を得ている。昼夜の避難訓練では避難経路、役割分担、連絡体制などの体制を整えている。また、地域の人々との協力体制構築に向けて取り組んでいる。				
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴などプライバシーを損ねやすいケアでは その時の状況などにより対応を考え、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳について職員間で話し合う機会を設けて、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけがないように職員間に周知している。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望により日常生活の中でなるべく自身の思いや希望を表せるよう対応している					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしその人がその人らしくいられるよう支援している					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい髪染めや衣類の選択、お化粧品などしたりおしゃれができるよう支援している					

グループホーム ひまわりⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど利用者と一緒にやっている。又利用者の一人一人の状況に合わせてながら 刻みやトミなどで工夫して美味しく食べて頂けるよう考えながら提供している	献立は利用者の好みを取り入れ、摂取状況にも配慮し工夫している。職員と利用者が一緒に和やかに準備し食事や片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人によって水分量を考えて対応している一人一人の状況に合わせて量や形状を変えて食べやすい状態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人一人の口腔ケアを一部介助見守り声かけなどでやっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人その人の排泄パターンを把握して日中や夜間どちらでもトイレの声かけや誘導の支援をしている又その人によって夜間だけ紙パンツを使用するなど、なるべく自立するよう支援している	職員は利用者個々の排泄パターンを把握しており、適時の誘導でトイレでの排泄支援に努めている。利用者が自力でできる部分を見出し、自立の拡大を図るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄のリズムを見極め薬だけでなく、ヨーグルトや野菜ジュースなどを摂ったり、その人に合わせた対応を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基本としているが状況によってシャワー浴をしたり支援している。又ゆっくり入って頂くよう1日かけて入浴をしている。順番を毎回変えたりと個々の希望に沿って支援している	利用者ごとに週2回程度の入浴ができるように支援している。また、利用者の体調や希望に合わせて入浴できるように取組んでいる。身体状況によってはシャワー浴や清拭も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や状況に応じて昼夜逆転しないようまた良眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一人一人使用している薬の目的や用法用量について理解しており、服薬の支援と状況の変化の確認に努めている		

グループホーム ひまわりⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの希望に合ったしたい事や出来る事をして頂き、日々の生活での張り合いや喜びが感じられるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の状況や希望も考えながら、個別での買い物、季節のイベント等に外出するよう支援に努めている	近隣には喫茶店や商店、岩盤浴の店、河川の公園があり、利用者の散歩や運動として外出している。近隣小学校より運動会の招待を受けて利用者と楽しんだりし、利用者の気持ちを和ませている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じて又その方の能力に応じてお金を所持したり一緒に買い物に行きお金を使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人との電話や手紙のやりとりができるよう 要望に応じて支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースではゆったりくつろげるように努め、職員がその月の季節に合った貼り絵などを壁に貼り季節感を取り入れて過ごせるよう工夫している	居間兼食堂はソファやテーブルと椅子等が置かれており、食事や利用者のくつろげる場所になっている。利用者の季節感のある作品が飾られていたり、玄関には近隣から頂いた生け花が飾られている。居室や共用空間は風通しが良く、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを色々な所に配置してそれぞれが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好みのものや家具などを置き服なども一緒に買いに行ったりと、少しでも本人が居心地よく過ごせるよう工夫している	使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込み、思い出の品や写真などを飾り、居心地の良い安心できる居室になっている。ベッドに居てもドアの開放を望む時は入口を解放して、共有空間からの賑わいが聞こえるよう対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人ができる事わかる事を活かしてお手伝いや 縫い物など、できるだけ頂いたり、その人らしい生活が送れるよう工夫している		